

第11回 吉野町地域公共交通協議会  
議 事 録

日時： 平成23年11月21日(月) 10:00～

場所： 吉野町中央公民館第3・4研修室

出席者：

所 属 ・ 役 職	氏 名	備 考
近畿運輸局奈良運輸支局 運輸企画専門官	土本 美和子	
奈良県土木部道路・交通環境課 課長補佐	竹林 義之	
奈良県土木部道路・交通環境課 主事	富家 崇雄	
吉野土木事務所 計画調整課 課長	山田 晃也	
吉野町区長連合会 会長	筒井 弘三	
吉野町観光協会 会長	福井 逸生	
奈良県交通運輸産業労働組合協議会 幹事代理	松石 康志	
社団法人奈良県バス協会 専務理事	西本 光良	
奈良交通株式会社 吉野営業所長	松尾 茂	
奈良交通株式会社 吉野営業所	林 秀治	
吉野町タクシー協会 上市部会長	戌亥 一男	
吉野町教育委員会 教育総務課 主任	戸毛 祥博	
吉野町 副町長	小松 正	会長
岸野都市交通計画コンサルタント(株)代表取締役	岸野 啓一	
吉野町企画政策課 課長	芳田 賢二	
吉野町企画政策課 課長補佐	上林 勝則	事務局
吉野町企画政策課 主査	井上 紀子	事務局

配布資料

- ・ 議事次第
- ・ 出席者名簿
- ・ 出席者座席表
- ・ 資料1「スマイルバスの利用実績と来年度以降の運営方針」
- ・ 資料2「国の補助事業について」
- ・ 資料3「平成24年度のバス運行に係る費用について」
- ・ 資料4「今後のスケジュールについて」

1. 開会

2. 会長あいさつ

(会長)

おはようございます。第11回吉野町地域公共交通協議会に早朝よりご参集くださいます。ありがとうございます。今年もあと1カ月とちょっとで終わりますが、おかげさまでスマイルバスも順調に運行しています。実証運行の3年目、平成24年からは自力での運行となるため、利用者のあるいは専門的な見地から、本日もご意見を賜りたいと思います。経費の問題も併せて考えていく必要があると思います。今日の会議の議題にもございますとおり、今後ともスマイルバスを存続して運行できますように建設的なご意見をいただければありがたいです。よろしくをお願いします。

### 3. 委員紹介 別紙参照

### 4. 議題

【1】平成23年度スマイルバス利用状況について・・・資料1参照

(事務局説明)

資料1に基づき担当説明

(会長)

コンサルタントからの補足説明はありますか？

(コンサルタント)

参考資料では便別の利用者数を取りまとめています。この数字については、運行委託先の奈良交通、相互タクシーの各運手さんが各自、各停留所での利用者の乗降をチェックし、それに基づき各バス停の「乗り」と「降り」の人数を調べていただいたもの表としてまとめています。各表の端には、その合計を出していますので、どのバス停で乗降が多いかわかると思います。

Aコースでは、三茶屋や旧中竜門小学校の利用者が多い。帰りの便では、上市から殿川で降りられる方が、通しで定期的に使っていただいているのがわかる。

(会長)

スマイルバス利用状況についてということで、バスを続けていく中でこれの分析が大事な部分になってくる。表もじっくりながめていただいて後で、各委員の皆様にご意見を聞きたいと思います。それでは2つ目の議題について事務局より説明をお願いします。

【2】平成24年度運行計画について・・・・・・資料1参照

(事務局)

資料1に基づき担当の説明

つづいて、「国の補助事業について」・・・・・・資料2参照

「平成24年度のバス運行に係る費用について」・・・・・・資料3参照

についても関連するため引き続いて説明。

(会長)

本日は、奈良運輸支局から専門官がおこしですので、平成24年度からの国の補助

事業についての補足のご説明をお願いします。

(運輸専門官)

吉野町の場合は、3年間の実証運行の後、地域公共交通確保改善事業に移行していただくこととなっている。先ほど事務局から説明のあった補助額の180万というのは、法律ができたときに計算した目安で、実は全国的にフィーダー線の確保維持事業の要求を積み上げていると、もう少しお渡しできる。24年4月からの半年分で、およそ240万くらい年間にして470万位になると思われる。

吉野町さんの場合は、ネットワーク計画の方に経路がおおくなっているのので、表2のところは路線の系統別になるのので、細かく何10系統になるかと思うが申請をよろしくをお願いします。

(会長)

当初のお話より、上乘せしてもらえるのでありがたいことだと思います。それでは、いままでの事務局からの説明や利用状況も踏まえて例によりましてお一人ずつ意見をいただきたいと思います。

(委員)

平成24年のバス運行の試算の説明をいただいたが、国庫補助が幾分上乘せになってはいるが、町の持ち出しが2,500万程度となる。過去のデータ基にして24年度についても計画しているとおもわれるが、再度知恵を出して乗車率を高める工夫をしていただきたい。

(委員)

一人当たりの乗車費用が1300円で収入が200円であれば、一般の会社では倒産する。一生懸命になって乗車人数を増やしていただく努力はわかるが、これ以上は伸びないのではないかと。85歳以上になると自分でバスに乗れない人が増えてくる。運行経費の方で何とかならないか。コンサルタントへ委託費はどれくらいになるのか。

(事務局)

コンサルタントに対する委託費は、この実証運行期間においては、年間300万円程度です。

(委員)

今後、利用者を拡大していくことは大変難しいと思われる。経費の見直しをする以外にないのではないだろうか。

(委員)

各家庭に配布されているバスの時刻表について、地域別に時間を分かりやすくしていくことはできないか。高齢者にもうちょっと時間表をわかりやすくすれば良いのではないだろうか。

(委員)

町民のためというのは良く分かるが、奈良交通が津風呂湖への便があったが今はない。観光客が利用率を高めた方がいいのではないかと。パンフレットとかネットで紹介させていただいて、やれば少しは稼働率が上がるのではないかと。来年以降吉野町の観光協会も津風呂湖と吉野山と国栖の各観光協会がポイントでしかなかったが、広域的に製材とかも産業観光などして取り入れてPRしていきたいと思っている。吉野駅や上市

駅に自転車を用意して、津風呂湖や国栖方面や宮滝へ廻っていただきたい計画を立てているが、年配の方にはこの、スマイルバスをPRすることで利用率のアップにもつながら、観光客の方も喜んでいただけるのではないかと思う。

(委員)

来年度の計画については、今年度と同様の運行をしていただけるということで、持続可能な公共交通としていただいたのはうれしく思う。財政の厳しい中、これを続けていくのが課題であると思う。公共交通というのは電気、水道、ガスなどのインフラと同じと思う。高齢者や小学生などの移動手段のない人たちを守る手段として、国、県と協力して、持続していただきたいと思う。

(委員)

スマイルバスを続けていくには、どこの市町村も同じであるが、まず財政的にどうするのか、という問題が出てくる。まず町民の協力が必要となる。運賃を300円にしても乗ってくださいとか、移動するには出来るだけバス、タクシーを使ってください、とPRしないといいけない。車の方がドアツードアで自分の時間で動けるしシフトするのはやむを得ないのだが、町民の協力を求めるしかないのではないか。あとは、自治体の考え方で予算を負担しても地域のために走らすのだというのか、利用が少なければ、なくしてくかは自治体の考え方しだいだと思う。

(委員)

いま、福祉でまちづくりのワークショップがあるが、コミュニティバスを存続していただきたいという意見が、各区全部出ている。ぜひとも個バス運行を存続していただきたい。

(委員)

スクールバスとコミバスが一体となって運行しているが、中学生に対してのそのような教育が足りなかったように思う。高校生になって、町外へ通う生徒がほとんどであるため、駅までの輸送の潜在的な需要が必ずあるはずだと思う。どんなバスがあるかということ、教育委員会として、十分に周知できていなかったようにも思える。スクールバスを利用するのは生徒は、200人前後なる。卒業しても親に送ってもらうのなくて、公共交通機関を利用して、みんなでバスを支えていきましょうと働きかけていけば少しずつでも変わってくるのではないかと思う。さっそく12月にある中学の進路相談の際にも学校の先生から指導をしていただきたいと思う。

(委員)

スマイルバスのアイデアを出していただいて、利用減に歯止めをかけていただいて、若干利用が増加しているのはありがたいことだと考えている。

大淀バスセンターのところで乗り合いバスの色々な路線運行しているが、同じ悩みがある。路線維持をするのに大変な思いをしています。戦略としては、近鉄とも協力し京阪神から来ていただいた人にバスに乗ってもらうようにと考えている。様々な割引等の特典を付けた乗車券の発売等も行っている。今年度の4月から9月までは順調に伸びていったが、台風の影響で落ち込んだので、来年はまた天川村の方で付加価値の付けた乗車券をつけて、外から吉野の方に来ていただいて乗ってもらうという戦略を考えている。先ほどの観光協会の意見に賛同する。町内の住民のかたの利便性をはか

りながら、外からきていただいたかたにも利用していただくことをかんがえていくことが良いと思う。運行委託受けている方ですので、安全安心で努力していきたい。

(委員)

今までここ1、2年いろんな努力をされて利用者が増えてきている。高校生あるいは中学生卒業時のPRを継続的にしていくのはいいことであると思う。新たな需要ということで外からの利用客にPRしたり、モデルコースを作ったりPRしていければ、まちの活性化にもつながり、バスの運行にもつながっていくと感じた。

(委員)

対応方針ということで、効率化を図っていく対応していく中で、どのような効率化かを明確にし、運賃とか収支の関係になってくるが議論ができるようにする必要がある。3年間実証運行の取り組みのについてももう少し、データを見せていただければ、もう少し議論ができるのではないかと。年間利用者の数については、もともと人口が全国的に減少していく中で、増やすのは難しい。収支率を上げていくのは町民への負担を上げていくのも考えていかなければならないと思う。最終的にPDCAサイクルどう改善していくのか、ある程度の指標、目標を運行される前にしていく進め方を1月下旬の協議会の中で議論できればと考えている。

(運輸専門官)

来年1月下旬次回、運行されるのは市町村有償運行のままでよいか。3月の中頃に近鉄ダイヤ改正があるので対応を検討していただきたい。ネットワーク計画においては、年間運行日数を書いてもらわないといけないのでよろしくお願いします。

(会長)

事前の資料送付もできない中で、とても参考になる意見をいただけた。1月の会議のときに中身に、今後どうしていくのか、色々ご意見をいただく中で乗車率を高めていくのは大事で、もっと観光客に利用いただくという意見や持続していかないとこれまでやってきたことが無意味に終わるので、頑張っけて続けていきたいと思うので、いろんな意見を出していただきたい。中学校を卒業されるかたに対して、スマイルバスを利用していただける啓発や方策を考えていきたい。

### 【3】今後のスケジュールについて・・・資料4

(事務局)担当説明

(会長)

ご意見の中で私もかんじていたが、時間表をもっと分かりやすくできないのか。自分の地区割りだけの時間割ができたと思うが。

(コンサルタント)

委員の皆様の貴重なご意見ありがとうございました。委託費のご意見もありましたが、委託費以上に吉野町のみなさんにプラスになれるようにと思っております。時刻表については、出来るだけ同じ地区は同じページで見れるようにした。たとえば上市地区は、Aコース、Bコース、上市巡回線があるが上市でのれるものは、一つにしているが、龍門地区については、龍門巡回線、Aコースがあったり、色々パターンがありみずらい面がある。工夫をしたいと思う。

利用促進については、一つの方策で全部上手くいく事はないので併せ技で対応していくことが重要である。観光客のためにHPで情報提供していただくことや、教育委員会で中学生のうちに教育していただくことは重要なとりくみだと考えるので是非実施していただきたい。

(会長)

過去の町議会の委員会のなかで、吉野運動公園基地として、桜井駅まで朝2回夕方2回運行し、高校生の通学利用に対応できないかという意見がでていいる。みなさんどうお考えになりますか。

(委員)

桜井方面への需要はあるのか。

(事務局長)

この路線を運行するのであればその経費は4、5百万かかる。厳しい財政状況なので、新たな路線を増やして赤字が増えいくのは難しいと考えている。どれだけ需要があるかわからないが、経費面では難しいと思える。

(会長)

高校生だけでなく、通勤にも利用し、運動公園へ車を止めて桜井駅まで乗ってもらって、大阪方面まで乗ってもらう。

(委員)

先ほどの時刻表について、高齢者にとってはめくって時間表を見るのは年寄りには難しい、家で張っておいたら分かるという時間表考えていただいたらありがたい。

(会長)

今日の資料眺めていただいて、次の機会にでも最後にご意見ございますか。

(委員)

利用率を高めるという観点から、観光客の取り込みは貴重な意見であると思う。協議会で色々議論をインターネットの町のホームページで議事録上げていただいているので過去の経緯も勉強する息さえあればできる。しかし町民の方の中には、バスの運行に対して人ごとでどこまで理解していただいているか。わたしは、バスに乗らないから関係ないという考えの方が多いうような気がする。吉野病院を利用しましょうというのと一緒に、PRしていただいているが、さらにやり方を変えて、意識の徹底を図ることが重要ではないか。せめて一年に一回でも乗ろうじゃないかと、いう機運を盛りあげたり、200円なんて高くないし、自動車を持っていても一回乗ってみようかなとなる。きめの細かい取り組みを、行っていただきたい。来年度からは、町の持ち出し資金が大幅に増えるので、財政や費用対効果を考える中で、利用者を増やせばそそ効果は確実にあがるのでそのような取り組みを行っていただきたい。

(会長)

貴重なご意見ありがとうございます。議論も出尽くしたようでございます。来年1月には会議を予定しております。忙しい時期にお集まりいただき、ありがとうございました。